

東日本大震災 連合救援ニュース

被災者の皆さまに心から
お見舞い申し上げます。

発行 連合災害対策救援本部

電話 03-5295-0539 FAX 03-5295-0547 soshiki@sv.rengo-net.or.jp
日本労働組合総連合会(連合) <http://www.jtuc-rengo.or.jp/>

1. 辻元補佐官 「連合ボランティアは被災者との信頼関係の要」

5月26日午後、辻元清美・内閣総理大臣補佐官(震災ボランティア連携室担当)が、連合の中央執行委員会を訪れ、連合救援ボランティアに対する感謝の意を表しました。辻元補佐官は、「連合ボランティアは、被災者とボランティアとの信頼関係を築く要となっている。ボランティア運営についても、中核的な役割を担っている。今後も、被災者の生活や気持ちを支える活動を続けていきたい」と連合救援ボランティアへの期待を述べました。

その後、中央執行委員会では、連合救援ボランティアの第2期(7月～9月)の取り組みについての協議が行われ、7月については現行の活動を引き続き展開することが確認されました。8月以降については、被災地域の復旧・復興状況、連合ボランティアの活動内容等を検証しつつ、6月以降の中央執行委員会で確認することになりました。

2. 連合救援ボランティア第7次無事帰着、第8次が出発

5月26日午前、連合救援ボランティアチーム第7次の290名が無事帰着し、入れ替わりで、第8次323名が、岩手県、宮城県、福島県の被災地に向けて出発しました。約1週間の予定で、宮古、東和、住田、仙台、千厩、美里、会津、いわき、相馬の9ヶ所を拠点に、被災地でのボランティア活動に従事します。



岩手チーム(宮古、東和、住田へ)

連合本部前で行われた出発式では、團野副事務局長は「被災地では連合救援ボランティアに対する期待は大きい。天候など条件は厳しくなるが、元気で活動を終わられ、次の仲間たちにバトンをつなげてほしい。『つながろうNIPPON』と激励の言葉を贈り、現地で安全に活躍されることを祈念しました。

参加者からは、「私たちにとってはガレキでも、被災者にとっては宝物であり、思い出である。被災者の気持ちにたった活動をしてきます」（岩手チームのUIゼンセン同盟・田村雅宣さん）、「知り合いの支部長は、すべての仲間を避難させた後、災害の犠牲となった。彼の勇気とやさしさに習い、泥まみれになってがんばってきます」（宮城チームのJP労組・野田淳さん）、「短い間ですが、現地の人に寄り添って、その活動を職場の仲間につなげていきたい」（福島チームの電力総連・當間錦也さん）と力強く決意が表明されました。



宮城チーム(仙台、千厩、美里へ)



福島チーム(会津、いわき、相馬へ)